

地方通信



茨城縣下國道改修の着工

茨城縣縣民歡呼の中に起工される新國道は昭和十年松戸——水戸間の豫定で、茨城千葉兩縣沿線市町村が合同期成同盟を結び猛運動を開始したが、途中から日立市までの延長を期する事となり、當時の水戸市長中崎俊秀氏が同盟會長に就任、兩縣官民合體の實現促進運動を年毎に熾烈化して展開した結果、遂に大國道着工となつたものである。併して千葉縣側常總國道は工費三百七十五萬圓、茨城常陸國道は九百二十七萬圓で着手されるが、竣成の曉は縣内土浦、水戸、日立を通る新國道路による本縣の大躍進が期される筈である。水戸市に開かれる起工式の喜びを當時の委員長中崎氏に傳

へると感慨無量の態で左の如く語つた。

「最初運動を起したのは松戸、水戸間であつたが、後刻發展の一途を辿る日立市も加はつて兩縣沿線全市町村が協力、毎年出來得る限りの猛運動を續けた當時の本縣知事が挾間さんであり、熱心に頑張つて呉れたばかりか、後に土木局長に轉ぜられてからも縣下の實情國道の重要さを思つて力を盡して下さつたので、この度の大成功を納めたいものです。何れにしる喜ばしい事だ」(助川生)

東洋第一を誇る小松川橋の竣工

待望久しい千葉から帝都への關門、小松川橋(江戸川區)がこの程竣工、十一月二

十日川西知事以下參列の上橋畔で竣工式を行ふた。工費二百四十七萬圓で、昭和九年工を起してから足かけ八年の長年月を要して完成したもの、川崎の六郷橋と同じ構筋繫拱式で、延長六百四十一米(荒川放水路に架けた大橋が五百米九〇中川に架けた小橋が百廿米四五)幅員十八米(車道十一米五〇、鋪道三米廿五)で、幅員と長さの點では東洋一だと府でも自慢のものである。

兵庫縣の此の橋梁も役

立つ

金屬類回收運動で家庭の火鉢や鐵柵も應召しようといふ折柄街中から、一舉に三百噸の鐵を浮かす豪勢な回收計畫が進められてゐる。——このデツカイ鐵資源は神戸市電高松線和田岬と笠松七丁目停留所の間で、省線和田岬線をまたぐ大跨線橋で、大正十三年四萬五千圓を投じて架橋され、天神橋、梅ヶ香町の跨線橋とともにその偉容を誇つてゐたが、こんど和田岬驛が同跨線

橋の手前西北側に移轉することに決定、着々移轉計畫が進んでゐるので、市電氣局では最早無用の長物と化した巨大な鐵資源をそのまゝにしておくのは勿體ないと、縣當局へ橋梁撤去を申請中で、和田岬驛實現と同時に回收工事に着手する運びとなつてゐる。この跨線橋は橋梁だけで百六十一噸、その他鐵筋を合せて三百噸の鐵が回收されるだけでなく、道路交通上の大きな邪魔物もこれですつかり除去されるわけ、田邊市電軌道課長は語る。

「あれだけ大きなものですから撤去作業も大工事ですが、あのまゝ放つておけば交通上にも支障があるし、かなりの鐵の回收にもなるので驛の移轉と同時に撤去したいと目下申請中です（H.M.生）」

道路復舊への熱汗奉仕

高知縣では過日の暴風雨の被害により縣道清水、宿毛線中、宿毛町、小筑紫村間中田ノ浦海岸路線は大破損をなし、自動車

交通は杜絶し、郵便物の遞送と旅客の不便の上もなく、幡多支廳小筑紫の土木出張所においてはこれが復舊に努力せるも、折柄の農繁期により出夫することが出来ず、工事が非常に遅れる状態にあつたので、地元小筑紫村警防團においては勤勞奉仕を合せ、十三日より毎日各班毎に復舊工事に奉仕し、材料を運搬して縣道の築造工事に従ひ路面の盛土、測樁の清掃等營々として

奉仕し、築造縣道延長、三十七米路線延長二千米におよび、被害後二十日にしてはじめて交通復舊を見るに至り、縣當局者並に陸運業者等より多大の感謝を拂はれてゐる。なほ本事業に對し十五日は男女青年團大海分團員五十一名も參加協力した。警防團奉仕人員は團長以下八十八名である。
(長瀧生)

大政翼賛會では去る七月から全國各地の主要優良農村を歴訪、あらゆる逆條件を冒して増産に挺身した農村の赤裸々な姿を調査取纏め中であつたが、此程完了した。以下は調査員が見た「何が食糧増産優良農村たらしめたか」十ヶ條である。

- 一、村民の和が一番大切だ。
- 二、村長を始め指導者達の人格徳望が優れ、彼等は率先垂範してゐる。
- 三、村の政争は絶對防止して平和な村を造る。
- 四、中堅人物の養成特に男女青年學校生徒の推進的活躍
- 五、統一ある村内の指導機關とそれに伴ふ役場産組農會等の三位一體的努力。
- 六、村の人々は共同一致して低收穫農家の向上に献身的努力を拂つた。
- 七、農業技術の向上にも村が一致邁進
- 八、如何なる會合にも奢侈は禁物だ。
- 九、早くから生産計畫と勞務動員計畫を建て逆條件を克服した事。
- 一〇、裕福農家の時局認識は徹底し村の施設その他に犠牲を拂つて協力邁進した。